

九州建設技術交流会だより

会長挨拶

九州建設技術交流会会長
(九州地方整備局企画部長) 清水 亨氏



本日は、暑い中、九州建設技術交流会にお集まり頂き、誠にありがとうございます。

平成 23 年度の国土交通省の公共工事関係の一般会計予算は 4 兆 8302 億円となっています。要求の中身は、国土交通省の成長戦略の実現に向けて、真に必要な社会資本の着実な整理や交通基本法関連の施策の充実、高速道路の原則無料化の推進、安全・環境・地域の雇用、経済の施策を強化などで、メリハリをつけた要求をしていく所存です。その要求の中で PPP を取り入れるなど、官民の総合力を結集し、施策を展開していく方針です。

国土交通省では、限られた予算の中で効果が高い事業を行うことが求められています。新たにインフラを整備する場合は、品質に優れた開発を勧める必要があり、今あるインフラを適正に管理していき、施設の長寿命化を図り適切に更新していくことも必要です。そのような状況においては、特に新技術の研究・開発といったものに、期待するところが大きいのではないかと思います。公益的な社会資本を整備して、よりよい状態に維持していくことを通じ、九州の安全・安心を確保し地域の活性化を図ることが、九州地方整備局のミッションでございます。その達成のためには、パートナーとしての産学官三者間のコミュニケーションがこれまで以上に重要になるのではないかと思います。最後になりますが、この交流会がコミュニケーションの場として活用され、産学官の関係者の益々の交流連携に係わることを期待致して、私からの御挨拶とさせていただきます。

《プログラム概要》 H22.9.10

- 挨拶：九州地方整備局企画部長 清水 亨
- 講演：「橋梁技術の半世紀の歩み」
九州大学大学院工学研究院教授 大塚久哲
- 情報提供：
産学官におけるベンチャー企業の設立「コンクリート混和剤の開発」
(株)ゼロテクノ 江藤光博
- 情報化施工に関する意見交換：
①「九州地方整備局における情報化施工の取り組み」
九州地方整備局 企画部 施工企画課長 楠本 敦
- ②「TS を用いた盛土の締固め技術」
(株)上滝 原 敏明
- ③「TS による出来形管理技術および情報化施工用ソフトについて」
(株)飯田建設 用松善彦
「情報化施工を実現する技術—測量機器と 3 次元データ利活用—」



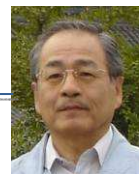
【交流会の開催状況】



当日参加者数
128 名

講演

「橋梁技術の半世紀の歩み」
九州大学大学院工学研究院教授 大塚 久哲氏



大塚氏は、「橋梁技術の半世紀の歩み」をテーマに昭和 30 年代から平成 21 年度に詳細設計が終了した地域高規格道路（熊本天草幹線道路）の新天門橋に至るまでの話をされました。特に、技術検討委員会の委員長を務められた新天門橋に関して、現天門橋の特徴、新天門橋の 1 次、2 次比較での評価項目や配点、設計方針や最終案についての構造検討、耐震検討、耐風検討などを具体的に紹介していただきました。そして、新旧橋梁の比較から、解析技術面での歩み、設計技術の歩み、保全技術の歩みについて述べられ、特に平成 7 年の兵庫県南部地震以降、耐震設計が格段に変化したことや各設計の研究の蓄積・ツールの整備により合理的な設計が可能となったことをいわれました。

また、橋梁技術は海外における日本人技術者の活躍が期待できる分野であるとも話されました。

情報提供

産学官連携によるベンチャー企業の設立
「～コンクリート混和材の開発～」
(株)ゼロテクノ 江藤 光博氏



(株)ゼロテクノの江藤氏は、「産学官連携によるベンチャー企業の設立」をテーマに、コンクリート混和材の開発を例に話をされました。ベンチャー企業を立ち上げるに至った経緯、ゼロテクノにおける産学官それぞれの役割分担について具体的な説明をされました。

また、実際にゼロテクノが開発した、コンクリートの耐久性向上のためのコンクリート混和材 CfFA に関する技術情報や、施工実績とその技術評価、今後の展開について具体的な報告がありました。報告ではかなりの効果が認められたとのことでした。

最後に、ベンチャー企業にとって一番の課題は、資金の調達、技術内容を広報伝達する機会の確保であると述べられました。

意見交換

～情報化施工に関する意見交換～

当交流会とも関係が深い「九州建設技術フォーラム」は、情報化施工をメインテーマに平成 22 年 10 月 21 日に開催される予定です。そこで、今回の交流会では九州地方整備局における情報化施工の取り組み、施工業者により情報化施工事例、計測機器メーカーにより計測システムについてそれぞれ紹介していただき、情報化施工について会場を交えて意見交換を行いました。

九州地方整備局企画部の楠本施工企画課長から、国土交通省が平成 20 年に策定した「情報化施工推進戦略」に基づく ICT を活用した施工管理技術への取り組みやトータルステーションによる出来形管理技術、マシンコントロール技術の紹介がなされました。(株)上滝の原氏は、長崎県内におけるトータルステーションを用いた盛土管理について具体的な紹介がありました。飯田建設(株)の用松氏からも同様にトータルステーション利用による出来形管理の具体例について紹介がなされました。また、(株)トプコン販売の田村氏は計測器具を供給する側からみたトータルステーションのメリット、デメリットについて事例を含めて話をされました。会場からは、情報化施工がコスト削減につながる工事規模や効果的な活用法などについて活発な質疑応答がなされました。今回の意見交換により、参加者の多くが情報化施工の重要性を認識されたようです。 【↓意見交換の写真↓】



話題提供に基づく意見交換会参加者

【司会者】

九州地方整備局 企画部機械施工管理官 木村 直紀

【パネリスト】

九州地方整備局 企画部施工企画課長	楠本 敦
株式会社 上滝	原 敏明
株式会社 飯田建設	用松 善彦
株式会社 トプコン販売	田村 将大

【事務局より】

当交流会事務局は産学官より事務局員を選出いただき協働の事務局として運営しております。九州での新技術の開発・活用・普及等へのご意見やご要望などがございましたら、お気軽に下記事務局までお寄せください。

【発行者】九州建設技術交流会

- 官＝九州地方整備局企画部機械施工管理官
TEL：(092)471-6331 FAX：(092)476-3483
- 学＝九州大学大学院工学研究院
TEL：(092)802-3372 FAX：(092)802-3372
- 産＝(社)九州建設技術管理協会
TEL：(092)471-0189 FAX：(092)414-0767
E-mail:kouryukai@kyugikyo.or.jp

事務局